

新旧文科副大臣が引き継ぎ書に署名

阿部大臣(前副大臣)と武部新副大臣が事務引継ぎ

政府は10月3日、臨時閣議で文部科学副大臣に武部新衆議院議員(54)を北海道12区、当選4回を起用することを決定した。なお、今枝宗一郎副大臣は再任された。10月4日は、阿部俊子文部科学大臣(前文部科学副大臣)

と武部新文部科学副大臣が事務引継ぎを執り行った。

武部新文部科学副大臣は早稲田大学法学部を卒業後、(株)日本興業銀行(現みずほフィナンシャルグループ)に入行。2000年に同行を退社後、2003年に米国・シカゴ大学公共政策大学院修士課程を修了し、12年に衆院選で初当選した。環境大臣政務官兼内閣府大臣政務官、農林水産副大臣を歴任している。



引継書を掲げる阿部文科大臣と武部文科副大臣



事務引継ぎ後の取材で、武部新文部科学副大臣は「日本の将来を切り拓くうえで大切な行政分野の副大臣を拝命した。重責だがしっかりと取り組んでまいりたい」と抱負を語った。



私の生い立ちを話しますと、北海道の知床斜里町という小さい町で生まれ育ちまして、机に向かっている時間よりも友達と野山を駆け巡っている時間の方が多かったです。ただもっと勉強したいと思っていて、400km離れた大都會の札幌の高校に下宿しながら通っていました。通わしてくれた親にも本当に感謝しています。そして銀行に就職したのですが世界を見たいという思いが断ち切れず退職し、アメリカの大学院に入学しました。大学院で学費の半分が免除されたのは助かりました。どこにいても、子どもから大人になっても「求める教育」が受けられる。自分が求めた教育を受けられ、自分の夢に挑戦し将来の希望を叶えられる社会をつくるのが文部科学省に課せられた大きな使命だと思っています。ぜひ皆様とともに仕事をさせて頂いて、そのような社会をつくってまいりたいと思っておりますので、皆様方のご協力を心からお願ひ申し上げます、就任のご挨拶とさせていただきます」

武部副大臣の就任挨拶

「藤原事務次官をはじめ職員の皆様方に温かく拍手で迎えて頂き、ちよつぱり照れ臭かったですですが本当に感動しました。アットホームな官庁であるということに改めて感じ、文部科学省のチームの一員として一緒に仕事が出来てくることを本当に嬉しく思います。

私が申しあげるまでもありませんが、教育は国の根幹であり、科学技術・学術は我が国が発展するうえで要となるものです。スポーツは国民生活を豊かにしますし、文化芸術は我が国の国柄そのもので、世界から憧れられる日本の象徴となるものです。そういった大切なお仕事を副大臣として務めることは本当に有り難いことです。ただ、教職員の環境改善、教師不足、教育負担費の軽減、研究力の向上など大変な課題もあると思ひます。約2800人の職員とお聞きしていますが、この人数でこれだけの大きな仕事をなさっている皆様方は恐らくスーパーマンのように仕事をされているのだらうと思ひます。皆副大臣として、皆



武部文科副大臣

この人数でこれだけの大きな仕事をなさっている皆様方は恐らくスーパーマンのように仕事をされているのだらうと思ひます。皆副大臣として、皆

様方のお役に立てるようしっかりと努めてまいりたいと思ひますし、副大臣室のドアは常に開けておきますので、ぜひアポなしでも構いませんので、フランクに、率直に意見交換をさせて頂いて政策に活かしてまいりたいと思ひます。

新旧政務官が事務引継ぎ

公明 金城泰邦衆院議員が就任

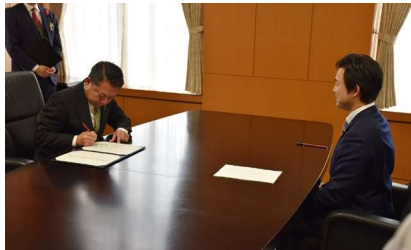
政府は10月3日の臨時閣議で、副大臣と政務官の人事を決定した。文部科学大臣政務官には公明党の金城泰邦衆院議員(55)が就任



引継ぎ書を掲げる金城新政務官④と安江前政務官

した。本田顕子政務官は再任。沖縄県出身の金城氏は、白保台一衆院議員の秘書を5年ほど経験した後、浦添市議会議員2期、沖縄県議会議員1期を務め、2021年10月の衆議院議員選挙で初当選した。比例九州ブロック、当選1回。これまで、障がい者福祉や教育問題を柱に据え、政治活動に励んできたという。

新旧政務官による事務引継ぎと幹部職員への就任挨拶が10月4日に行われ、金城政務官は「人材を育成する上で教育の役目は非常に大きい。期待に応えられるよう任を全うして参りたい」と意気込みを述べた。金城政務官は教育とスポーツを担当する。



引継ぎ書に署名する金城氏④

政務三役がそろう、阿部新体制がスタートした。

金城文科大臣政務官

「安江政務官の後任として任命いただきました金城泰邦と申します。

私は沖縄出身で、これまで地元沖縄で市議会議員2期、県議会議員1期を務め、12年間ずっと、文教厚生関係の委員会に所属しておりました。個人的には小中学校のPTAの役員や、地域の子どもたちを育成する会の会長、少年警察ボランティア(少年の非行防止や健全育成のための活動にあたる民間ボランティア)などをさせていただきました。また、私自身、特別支援学校を卒業した娘がおりまして、特別支援教育にも力を入れて取り組んでまいりました。そういった地域で得た経験を生かしていければと思います。

今回、政務官として担当する分野は教育・スポーツだと伺っております。どの地域にあっても、またどういった個性であっても同じく、等しく教育を受け、またスポーツに勤しんでいける、そういった文部科学省の、特に教育・スポーツにおける政策、これをしっかりと前に進めていけるよう私も力を発揮していければと思っておりますので、各分野のエキスパートである職員皆さまのご知見をお貸しいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。」



金城政務官

安江前文科大臣政務官

「教育行政におきましては、子どもたちの個性に合わせた多様な学びの在り方、誰一人取り残さない教育を推進していくということ、取り組みを進めさせていただきました。また、スポーツでは、幸いにもパリパラリンピック大会の視察に行かせていただき、パラスポーツの重要性、可能性、社会に与えるインパクトの重要性など、多く見聞をさせていただきました。いただいた次第でございます。

この場では言い尽くすことができませんが、皆さま方と一緒に聞かせていただく政策、また現場の声を聞かせていただいたその政策課題を、党に戻っても、文部科学省の「大応援団」の一人となつて、また、文部科学行政の振興の先兵となつて頑張っていきたい。この決意を皆さまに申し上げる次第でございます。皆さま方お一人お一人のお仕事、私も自分なりにお支えをできるように頑張っていきたい。このように決意をする次第でございます。

抽象的な言い方にはなりますが、文部科学行政は人間性をどう開花していくか、どう支えていくか。そういう使命を担っているかと思っております。



安江前政務官

この一年間、皆さまには本当にお世話になりました。心からお礼申し上げます。ありがとうございます。」